

## 第21回武魂杯 ストライク&ディフェンス 補足事項

### ストライク&ディフェンスについて

募集要項等でののご案内に重複する部分もあるかと存じますが、補足させていただきます。

ストライク&ディフェンスは相手とは組手をせずに、空手着の主審に対して攻撃をします。

攻撃だけではなく防御技構え等（ディフェンス）の動作もあった方が評価は上がります。

主審は蹴りや突き技は出ませんが、相手の攻撃技を想定、イメージして、上段廻し蹴りを受ける動作、下段廻し蹴り（ローキック）を受ける（脛受け）動作などが攻撃の合間にあるとより良いです。

試合は、空手着の主審が対戦選手の攻撃を順番に受け、その攻撃力（ストライク）と、防御技構え等（ディフェンス）を受けて、優劣を付け判定します。

副審は上記を見た中で優劣を付け判定します。組手同様の旗判定となります。

主審は選手の技の強さ、有効性を認めたが、副審が技有りを取らない場合、主審は試合を中断して副審との審議をし、技有の有無を確認する場合があります。（上段への蹴り技のクリーンヒット、強く、速い攻撃技は、技有りになる場合があります）

反則技等の規定は通常組手規定と同様となります。

主審、副審2人、3人制の判定（主審、副審同時に赤、白の旗をあげあます）となります。

### 追申

3月の武錬横浜カップで始めたパワーアタックの名称を **ストライク&ディフェンス**に変更はしましたが、初心者、幼年、低学年、女子など、組手が怖い、痛いのは嫌、と言った**試合に出る勇気がまだない稽古生、一般、シニア等で、仕事上怪我できない、持病等で組手ドクターストップ、身体、精神に障がい等がある稽古生が、普段の稽古成果を発揮する場となるカテゴリーである主旨は変わりありません。**